

手練

S H U R E N

第 19 号





表紙

会報名の手練（しゅれん）とは、熟練した手わざのことです。これからも、常に我々が文化財等の日本の屋根を守っているのだとの心構えを忘れず、会報名に恥じないような技術者になっていただくことを願って命名しました。

目次

■文化財屋根葺士養成研修 第24期生 修了式 並びに 第25期生 開講式	2
■文化財屋根葺士養成研修 第25期生 前期研修 開始	7
■主任文化財屋根葺士 検定会 実施される	9
■主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 開催.....	9
■令和5年度 檜皮採取者(原皮師)中級研修	10
■令和5年度 檜皮採取見学会	11
■令和5年度 第3回 指導者,準会員合同研修会	13
■令和5年度 屋根板製作者養成研修	14
■令和5年度 茅葺中級研修	15
■令和5年度 茅葺きフォーラム 開催	17
■令和5年度 文化財研修会	19
■準会員 名簿	21
■あとかぎ	

文化財屋根葺士養成研修 第24期生 修了式 並びに 第25期生 開講式

期日 ● 令和5年4月12日(水)

会場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター

文化財屋根葺士養成研修第24期生の修了式、並びに文化財屋根葺士養成研修第25期生の開講式を執り行いました。コロナ禍で中止しておりましたが、4年ぶりに開催することができました。多数の御来賓、関係各位の御臨席のもと、研

修生たちは皆緊張した面持ちで式に臨みました。日本の文化財を継承していくという仕事の重要性や意義を十分理解しながら、今後は各会社の中で一人前の職人を目指し、精進していただきたいと思います。また、新たな研修生3名が、これから知識と技術の習得に励むことになります。気を引き締めて、日々の研鑽に努めてください。

研修に際しましてご指導をいただきました、関係各位、講師の先生方には心より御礼申し上げます。

[文化財屋根葺士養成研修 第24期生]

- 橋本浩太郎 / (株)河村社寺工殿社
- 品川 琉心 / 田中社寺(株)
- 川瀬 皆人 / 田中社寺(株)



[文化財屋根葺士養成研修 第25期生]

- 末岡 治人 / (株)小山社寺工業所
- 友井 康介 / (株)友井社寺
- 平尾 零 / (株)松村工務店



京都市文化財建造物保存技術研修センター内にて

来賓祝辞



文化庁文化資源活用課
修理指導部門主任文化財調査官
建造物保護調整室長 武内 正和

本日ここに、「文化財屋根葺士養成研修第24期生修了式ならびに、第25期生の開講式」にあたり、一言お祝いを申し上げます。

研修会を無事修了された皆さん、長期にわたる研修お疲れさまでした。いろいろご苦労もあったかと思いますが、檜皮や竹釘など材料の拵えから、模型を使った檜皮葺の実習、さらに実際の建物における実習や専門家による社寺建築の見学など、貴重な機会を得て研修に励まれ、檜皮葺技術の知識と技術を得ることができたのではないかと思います。

また新たに研修に参加される皆さんは、これからの研修期間中、体調に留意して、有意義な研修を過ごしてください。

この会場近くの清水寺では、本堂の檜皮葺屋根もだいぶ落ち着いた風合いとなり、境内や参道はかつての賑わいを取り戻しています。また昨年、奈良県の春日大社では、重要文化財である若宮の檜皮葺葺替工事が行われました。20年に一度という式年造替の周期を復活させたものです。屋根葺技術は、屋根をきれいに丁寧に葺きあげるといった目的だけでなく、所有者の皆様にとって貴重な堂舎や社殿を守り伝えることの一助になるという点でも、とても意義が深いものです。そのような重要な技術に対する信頼を積み重ねてこられたのは皆様の先輩方がありますし、皆様もそれを継承する立場にあります。

文化庁は今春から京都に移転して仕事を始めています。技術伝承やふるさと文化財の森事業の充実など、保存会とも連携して進めていきたいと思っております。

受講者の皆様におかれましては、今回の研修で得られた技術や技能をもとに、今後ともそれぞれの実務を通して自己研鑽に努めていただき、伝統的な屋根葺き技術の担い手として、大いに活躍されますよう祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございました。

来賓祝辞



滋賀県文化スポーツ部
文化財保護課
建造物第二係長 清水 一徳

本日は文化財屋根葺士養成研修の修了式、及び開講式がこのように盛大に行われますこと、まことにおめでとうでございます。心からお慶び申し上げます。

また、保存会の皆様はじめ、文化庁さま、関係機関の皆様には、日頃より大変お世話になっております。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

研修を無事修了された皆さん、お疲れさまでした。コロナ渦の影響もあるなかで長期間にわたる研修により、屋根葺師としての技術を習得され、またかけがえのない友人を得ることができたのではないかと思います。

また、新たに研修に参加される皆さんには、研修中は体調に留意され、怪我をしないという現場の基本を忘れずに、最後まで元気に研修を終えられるよう、有意義な研修を過ごしてください。これからの研修を一生の財産としていただきますようお願いいたします。

さて、滋賀県では、国指定文化財でいうと、植物性屋根が占める建造物の割合は5割を超え、例年必ずといっていいほど、植物性屋根をもつ文化財建造物の修理が発生しています。これを継続的に、かつ適切に行うためには、これら屋根材の安定的な確保とともに当該資材に関する技能者を育成することが重要な位置づけであり、保存会で長く継続されてきた各種研修の取組が、このことに大きな役割を果たすものと考えております。

我々自身もまた、保存会の取組や皆様の御経験をお教えいただき、研修を終えられた方、そして将来的には、本日新たに研修に入られる皆さんと共に文化財保護の取組を推進させていただきたいと考えておりますので、なにとぞよろしく願いいたします。

結びにあたりまして、あらためまして研修生の皆様が文化財の保存技術者として、研鑽に励んでいただき、将来の文化財の守り手として御活躍いただきますこと、並びに、本日御出席いただいております皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、簡単ではございますがお祝いと激励の言葉とさせていただきます。

本日は、本当におめでとうございました。

来賓祝辞

公益社団法人
全国国宝重要文化財所有者連盟
常務理事 鶴岡 典慶



文化財屋根葺士養成研修第24期修了式並びに第25期開講式の開催おめでとうございます。研修は2年間をかけて実施されており、今回が25期ということは本研修が約半世紀にわたり実施されてこられたということで、長年にわたり技能者育成に取り組んで来られました保存会の関係者の皆様のご尽力に心から敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

さて、私共全国国宝重要文化財所有者連盟の所有者は、文化財の継承のため日々保存管理に努めておりますが、経年による劣化や破損に対しては根本的な修理が必要となります。特に屋根の修理は一定周期で全面葺替が必要となるため、その経費負担が非常に大変であります。国庫補助金をはじめ多くの方々からの支援により何とか実施出来ているところです。したがってまして施工に携わる皆さんは、そのような公金や多くの人々の想いが込められていることを認識し、技術の錬磨に励んでいただくとともに一つ一つの仕事を丁寧に施工していただきたいと思います。

次に、皆さんはそれぞれの事業所に所属され、日常は事業所の先輩方から技術を学ぶのですが、この研修では異なる所属の方たちとともに、異なる先輩指導員のもとで様々な技術を学ぶこととなります。時には今までと違う工法があるかもしれません。しかしそれらはどちらが良くてどちらが悪いかでなく、各地域ごとの特性によるものが大いにありますから、他の技法を知るとともに皆さんの事業所の独自性も再認識して技術保存をするように心がけていただきたいと思います。文化財建造物においても、建立時代や地域、構造形式等により、様々な形状をしています。これから皆さんはいろんな地域の屋根を葺く機会があるかと思っておりますので、それぞれの特徴を十分理解しながら、耐久性と美しさを備えた屋根を葺いていけるよう技術の習得と向上に努めていただきたいと思います。

最後になりますが、研修を終えられた皆さんは、学ばれたことを再度思い起こし、指導いただいた方への感謝を忘れずこれからの仕事に励んでいただきたいと思います。またこれから研修を受ける皆さんは健康に留意して、無事研修を終えられますことを祈念いたします。

本日は誠におめでとうございます。

講師祝辞

OFFICE 萬瑠夢
代表 村田 信夫



文化財屋根葺士研修第24期生修了式、第25期生開講式を迎えられた皆さまへ、お祝いの言葉を贈ります。

修了生の皆さまには、心からお祝いを申し上げます。私はこの研修で、文化財保護法の講義、また文化財建造物演習で、滋賀県と京都市内の国宝建造物見学の引率をしました。久しぶりに皆さんと再会し、一段と遅しくなられたと強く感じています。

今後は重要文化財建造物などの伝統的な屋根葺きに精進され、伝統技法を後世にしっかりと継承していただきます。

次いで、開講式を迎えられた皆さんは、大きな希望と同時に少しの不安もおありのことでしょう。私が修理現場で出会う若い人達にいつも伝えている2つの言葉を贈ります。

一つ目は健康に留意し、怪我をしないこと。

近頃は屋根葺きにおいても電動工具を使う機会があります。建築現場では、「怪我と弁当は自分持ち」と言う諺があります。これには色々な深い意味がありますが、自分で負った怪我は自分の責任だと、私は思っています。くれぐれも怪我のないようにしてください。

二つ目は簡単に転職しないこと。

大きな希望を抱いて、この仕事を選ばれたのですが、時には屋根葺きの仕事は自分に適していないのではないか、また人間関係が上手くないかなど、悩まれることがあるでしょう。最適なお仕事に就けている人は、ごく少数だと思います。また人間関係の難しさは、何処にいても避けては通れません。このような時に、親方や先輩の皆さん方は是非とも助言をしてあげてください。

ところで、この研修を含め、文技連(文化財修理技術保存連盟)の研修は国庫補助を受けています。即ち税金が使われているのです。さらに研修関係者の労力などを含めると、膨大な経費がかかっています。

今回入講された皆さんは、このことを十分に理解した上で、実りのある研修にしてください。

激励の言葉

京都市文化市民局
文化芸術都市推進室
文化財保護課
課長 牧山 安弥子



今日は、文化財屋根葺士養成研修修了式並びに開講式がこのように盛大に執り行われますことを心からお慶び申し上げます。

また、日頃は大野会長をはじめ、全国社寺等屋根工事技術保存会の皆様におかれましては、文化財の修理事業や伝統文化の技術継承に御尽力いただいております、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

文化財屋根葺士養成研修第24期生の、橋本 浩太郎さん、品川 琉心さん、川瀬 皆人さんにおかれましては、無事研修を修了されましたこと、誠におめでとうございます。

令和3年度には、コロナ禍により、研修が延期となり、また、令和4年度にも一時中止となるなど、この3年間大変ご苦労様でした。今後の益々の御活躍を祈念いたします。

また、新たに文化財屋根葺士養成研修第25期生として、末岡 治人さん、友井 康介さん、平尾 零さんの3名の皆様に、研修の新入生としてお迎えできましたこと、誠に喜ばしく思います。

皆様には、体を大切に怪我なく頑張ってください、これからの研修を一生の財産としていただきますようお願いいたします。

さて、檜皮採取をはじめとした文化財を保存・継承するための技術が、「文化財の保存技術」として保護の対象になりましたのは、今から50年近くも前のことです。当時、社会や自然環境の変化などにより、技術者の減少、高齢化といった課題が顕著になったことを受け、文化財の保存そのものに大きな支障をきたすおそれが生じたことから、昭和50年、文化財保護法が改正され、文化財の保存技術が保護の対象となりました。

今日においても、文化財を保護していく上で、修理に必要な材料をいかに確保し、伝統的な建築技術をいかに後世へ伝え、その技術の後継者を育成し続けられるかが、非常に重要な課題になっています。

そのような中、令和2年には、「伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。数々の貴重な文化遺産を維持継承するに当たっては、これらの伝統技術は必要不可欠なものであり、今回の登録は、非常に心強い限りです。全国社寺等屋根工事技術保存会をはじめとする関係の皆

様が、長年にわたり、技術継承について数々の成果を挙げてこられた、その御尽力の賜物と存じます。今後、この、伝統を受け継ぎながら発展してきた技術が、文化財の保存に携わる人だけでなく、一般の人々にも知られ、関心や理解が深まることにより、その継承につながっていくことを期待しております。

今年は、いよいよ文化庁が京都に本格移転してこられました。本市におきましても、新たな体制の文化庁と連携しながら、本市自らの役割・責任をしっかりと果たしつつ、文化財の保存に欠くことのできない伝統的な技術への支援にも、力を尽くしてまいりたいと考えておりますので、なにとぞよろしく願いいたします。

結びにあたりまして、研修を修了された皆様、あるいはこれから受講される皆様が、文化財の保存技術者として研鑽に励んでいただき、将来の文化財の守り手として御活躍いただきますこと、並びに、本日御出席いただいております皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、簡単ではございますが激励の言葉とさせていただきます。

修了生謝辞



文化財屋根葺士養成研修
第24期生 橋本 浩太郎

私たちの研修は、新型コロナウイルスの影響により研修時期の延期や、現場研修に出られないなど、予期せぬことの連続でした。そんな中で私たちが研修をできるようになったのは、多くの方々のお力添えがあったからだと思います。

この研修では、屋根材の加工を主に経験しました。柿の板割りでは、自分の会社とはまた違ったやり方

を体験させてもらいました。元々経験したことがなかった檜皮の皮切りでは、この研修で指導員の方から様々なやり方や技術を教えていただき、貴重な経験ができたと思います。

最後になりましたが、指導してくださった講師の先生方、ありがとうございました。



全国社寺等屋根工事技術保存会 大野会長からのご挨拶

文化財屋根葺士養成研修 第25期生 前期研修 開始

令和5年度 国庫補助事業 文化財屋根葺士養成研修第25期生の開講式を4月12日に京都市文化財建造物保存技術研修センターで行い、前期の研修を5月8日から開始致しました。

今回は3名の研修生が研修を受けております。

研修内容は、実技として材料整形、模型を使用した屋根葺と現場実習、専門工法、座学として日本建築史、積算・仕様・工程管理、建築史演習、文化財保護法、日

本建築の構造と仕様、労働安全衛生法など、たくさんの科目があります。すぐには理解できないと思いますが、辛抱強く取り組むことで今後の仕事に活かしてほしいと思います。研修生の皆さん、有意義な研修になるように頑張ってください。

関係者各位には今後とも一層のご指導、ご協力の程よろしくお願い致します。

実 技



あて作り



材料整形

座学/実習



座学 / 建築史演習



現地実習 / 建築史演習 / 大徳寺



模型屋根算実習



現場研修

主任文化財屋根葺士 検定会 実施される

【第22回】● 令和5年6月5日(月)～10日(土) / 2名(茅葺師)

【第23回】● 令和5年10月2日(月)～7日(土) / 2名(檜皮葺師)、2名(茅葺師)

本年度は2回の実施で、茅4名、檜皮2名の受検者6名となりました。茅葺の施工では流れるように手順よく、精度の高い仕上がりになったと思います。各講師来賓の皆様からの採点でも大きく減点される項目はなく、概ね好評でした。学科試験についても計算問題などは正解率が高く、責任者としては申し分ない成績の受検者が多く、1名のみ学科再受検とはなりましたが、実技は全員合格



検定会会場風景

[会場●山南ふるさと文化財の森センター]

点となりました。

一方、檜皮葺については、収まりや線、水切りの取り付け、裏板の取り付けなどについて各採点者より厳しい評価が相次ぎました。学科試験においても基本的な間違いがいくつか見られ、必要材料数の算出など責任者としてはおぼつかない足取りであったため、残念ながら2名とも再度受検を求めることとなりました。



軒切りに取り組む檜皮葺きの受検生

主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 開催

日時 ● 令和5年11月24日(金)10:00～12:00
会場 ● 京都市文化財建造物保存技術研修センター

今年度も、京都女子大学より鶴岡典慶教授を講師にお迎えし、更新講習会を行いました。多くの更新者が参加し、屋根葺士15名の更新を行いました。

講習参加者は鶴岡様の講義に関心を持って聞き入り、質問する姿も見受けられました。特に屋根の腐食原因の変化や耐久年数の変化について、報告や意見交換が多く行われました。

近年は気象による突発的な状況が増え、屋根が受ける

被害も軽傷ではありません。今後、環境の変化に耐えられる屋根を作り上げるために、屋根葺士も常に新たな学びや実績を積み上げることが求められているように思います。

保存会としても、主任技術者のさらなる意識向上と地位向上、技術向上のため、講習会を通じて新しい知見を身に付けられるよう努力していきたいと思います。



令和5年度 檜皮採取者(原皮師)中級研修

令和5年度の檜皮採取中級研修は、8月28日(月)の鞍馬山国有林から始まり、岡山個人林、権現山国有林、賤母国有林、仏通寺国有林、八坂国有林、城山国有林、千石谷市有林、栃本市有林にて全14クルの研修を行い、1月19日(金)に終了しました。

1クール2週間で入山し、限られた時間の中での作業

になります。普段はともに山に入ることのない研修生たちですが、研修中は切磋琢磨し、より良い研修になっていると思います。

本年度も研修林を提供していただきました皆様に感謝申し上げますとともに、今後ともご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



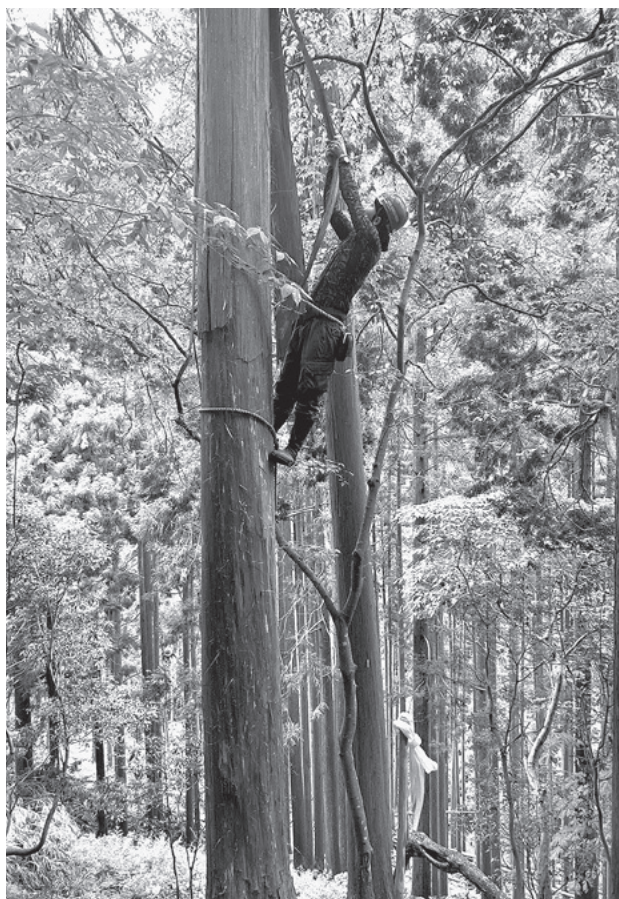
形状を確認しながらのヘラ入れ(千石谷私有林)



檜皮揃え(岡山個人林)



檜皮の結束(鞍馬山国有林)



ぶり縄を用いた檜皮の剥きあげ(鞍馬山国有林)



檜皮の切断(岡山個人林)



1丸単位に再結束された丸皮の集積(岡山個人林)

令和5年度 檜皮採取見学会・視察会

会 場 ● 鞍馬山国有林（京都府）、権現山国有林（和歌山県）、賤母国有林（長野県）
期 日 ● 令和5年9月13日（水）、9月15日（金）、10月23日（月）、11月21日（火）、11月29日（水）、12月4日（月）
参加団体 ● 京都大阪森林管理事務所 森林総合研究所、文化庁、和歌山森林管理署、長野県林業大学校、南木曾小学校、南木曾町議会

●文化庁 9月15日（金）

本年度も各地にて檜皮採取見学会・視察会を行いました。檜皮採取の技法を見て、触れる場を提供し、日本の伝統技術・文化財を身近に感じていただく取り組みとして、原皮師を講師に毎年のように行っています。

皆様には、研修場所までの山中を15～30分ほど歩いていただき、現場にて檜皮採取作業をご覧いただきます。檜から皮を採取することは大変な作業になりますが、採取した檜皮をその日のうちに持って降りることも考えると、原皮師の日々の仕事がいかに厳しいかということをしつかり感じていただけたかと思います。

今後も、檜皮採取見学会・視察会を通じて日本の技を知って感じてもらえるよう、継続してまいります。



檜皮を手操りながら引き剥がす技に注目する文化庁参加者

鞍馬山国有林

●京都大阪森林管理事務所 森林総合研究所
9月13日（水）



斜面から作業を見守る森林総合研究所参加者



一連の作業を見守る文化庁参加者

賤母国有林

●長野県林業大学校 11月21日(火)



山林内で楡皮採取作業の説明を受ける長野県林業大学生



結束した楡皮の切断を見守る長野県林業大学生

●南木曾小学校 11月29日(水)



楡皮を剥きあげる作業に興味深く見つめる南木曾小学生



実際に楡皮を手に取り感触を確かめる南木曾小学生



ぶり縄に興味を持つ南木曾小学生

●南木曾町議会 12月4日(月)



見学場所まで山道を登る南木曾町議会の参加者



原皮師の剥きあげに見入る南木曾町議会の参加者

令和5年度 第3回 指導者, 準会員合同研修会

期 間 ● 令和5年11月27日(月)～28日(火)
 会 場 ● 賤母国有林(長野県木曾郡)、南木曾会館(長野県木曾郡南木曾町)、赤沢自然休養林(長野県木曾郡上松町)
 協 力 ● 南木曾町、林野庁 中部森林管理局、中部森林管理局 木曾森林ふれあい推進センター、木曾森林管理署、木曾森林管理署南木曾支署

今回の「指導者, 準会員合同研修会」は、長野県木曾郡で開催致しました。当日は29名の参加があり、賤母国有林にて採取研修生3名による採取の実演を行いました。木のヘラ1本、ぶり縄とナタを用いて檜皮を採取する様子を見学し、その後南木曾会館にて、中部森林管理局 総務企画部総務課 森林総合監理士 井上 日呂登様による絵巻物「木曾式伐木運材図会」についての講話をいただき、続いて、当会採取担当理事の河村 雅史から「賤母国有林のあゆみ」について講話を行いました。

2日目は日本三大美林の一つとされる赤沢自然休養林にて、中部森林管理局 木曾森林ふれあい推進センター 自然再生指導員 大久保 秀一様に解説していただきながら見学しました。

ら見学しました。



井上 日呂登様による講話



採取研修生3名による採取実演見学



「赤沢自然休養林」見学会

実演見学 「賤母国有林」

説明・解説 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 指導員 大野 浩二

1日目

講 話 会 「南木曾会館」

講 話 ● 中部森林管理局 総務企画部総務課 森林総合監理士 井上 日呂登 様
 題目「木曾式伐木運材図会」について

講 話 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 採取担当理事 河村 雅史
 題目「賤母国有林のあゆみ」について

見 学 会 「赤沢自然休養林」

解 説 ● 中部森林管理局木曾森林ふれあい推進センター 自然再生指導員 大久保 秀一 様

2日目

令和5年度 屋根板製作者養成研修

期 間 ● 令和5年9月25日(月)～10月5日(木)
講 師 ● 栗山 弘忠(栗山木工(有))

屋根板製作選定保存技術の保存団体として、平成30年に認定を受けたことを契機に平成31年度より屋根板製作者養成研修を開始しました。今年度は研修生3名を対象に、栗山木工有限会社様の協力のもと実施いたしました。

杉材を用いて主に平板(1.0尺×1.0分)の製作工程を実習し、原木の見分け方、材の取り方、木取り方法の基本など実際に目で見ながら勉強しました。初めて目にする事なので皆、興味深く熱心に聞き入っていました。また、最初は慣れない作業に戸惑っていましたが、最終日に近づく頃には、少し慣れた様子で作業をしていました。

文化財建造物を保存していくうえで、良質な資材の確保は必要不可欠です。研修生にはこの研修を通じて、屋

根板製作の大切さを理解し、良い経験にさせていただきたいと思います。

来年度以降も研修は続きます。この研修がいつまでも続くよう皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



講師より指導を受ける研修生



板へぎ作業をこなす研修生

令和5年度 茅葺中級研修

期 間 ● 令和5年6月26日(月)～7月1日(土)、9月7日(木)～25日(月)、10月9日(月)～14日(土)、
令和6年1月15日(月)～20日(土)

現 場 ● 茅葺／重要文化財 旧長谷川家住宅(新潟県長岡市)、みちのく民俗村 水車小屋(岩手県北上市)、舟井家住宅
(大阪府河内長野市)
茅刈り／大室山(静岡県伊東市)

今年度は、6月26日(月)～7月1日(土)まで新潟県長岡市の重要文化財 旧長谷川家住宅において平葺きの研修、また、9月7日(木)～9月25日(月)まで岩手県北上市のみちのく民俗村 水車小屋の葺き替え研修、10月9日(月)～14日(土)まで大阪府河内長野市の舟井家住宅において軒付・平葺きの研修を行いました。

研修では、当会正会員 大西 謙之、準会員 佐藤 偉仁・樋口 隆がそれぞれ指導にあたりました。研修生は岐阜・大阪・栃木・新潟からの参加となりました。普段の活動地域とは異なる地方の屋根葺きは異なる手法を知るきっかけともなり、実りのある研修だったと思います。

重要文化財 旧長谷川家住宅

講 師 ● 樋口 隆(株)越乃かやぶき
研修生 ● 2名 / 山口 成貴(田中社寺(株))
余宮 祥平(同)大西茅葺



安全確認・研修内容確認



結束方法・緊結確認



鉾竹の取付け

みちのく民俗村 水車小屋

講師 ● 佐藤 偉仁 (㈲熊谷産業)

研修生 ● 1名 / 中島 信 (㈱茅葺屋根保存協会)



屋根地補修



軒付け



平面仕上げ

舟井家住宅

講師 ● 大西 謙之 (㈲大西茅葺)

研修生 ● 2名 / 藤原 優 (㈱越乃かやぶき)

猿橋 成博 (㈱茅葺屋根保存協会)



軒付け



平葺

大室山 茅刈り

講師 ● 大西 謙之 (㈲大西茅葺)

水野 暁彦 (㈱茅葺屋根保存協会)

研修生 ● 5名 / 新津 侑樹 (伝匠舎(㈱石川工務所))

加々美 栄 (伝匠舎(㈱石川工務所))

八ッ橋 崇市郎 (㈱越乃かやぶき)

吉澤 裕紀 ((一社)日本茅葺き文化協会)

佐々田 元 ((一社)日本茅葺き文化協会)



茅刈り

令和5年度 茅葺きフォーラム 開催

期 日 ● 見学会／令和5年9月19日(火)
協議会／令和5年9月20日(水)
会 場 ● みちのく民俗村 水車小屋
(岩手県北上市立花 14-62-3)
北上市立博物館
(岩手県北上市立花 14-59)

令和5年度中級技術研修の期間中に、現場見学会及び協議会を開催いたしました。今回は、みちのく民俗村 水車小屋の屋根を全面葺き替える研修でした。講師 佐藤偉仁の指導のもと、東北特有の屋根の葺き方を教わる機会に恵まれました。実技研修においては、東北地方特有の芝棟の取め方など、特殊な技術を学べる貴重な研修になりました。

一方、協議会では、建築装飾技術史研究所 所長 窪寺茂様、北上市立博物館 館長 渋谷 洋祐様にご講義をいただき、短い時間ではありましたが活発な議論ができました。講師と研修生によるパネルディスカッションも行わ

れ、技術伝承の問題点なども議論となりました。

お話をいただきました窪寺様・渋谷様、総評をいただきました文化庁 文化財調査官の結城 啓司様をはじめ、開催に際しましてご協力を賜りました皆様方に厚く御礼申し上げます。



葺き替え前 みちのく民俗村 水車小屋

見学会 「みちのく民俗村 水車小屋」

現場説明 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 講師 佐藤 偉仁

協議会 「北上市立博物館」

開会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 会長 大野 浩二

講 義 ● 建築装飾技術史研究所 所長 窪寺 茂 様
題目「屋根茅葺技術の伝統性を考える」

講 義 ● 北上市立博物館 館長 渋谷 洋祐 様
題目「盛岡藩領の家作をめぐる諸相」

討 論 会 ● 議題「東北の屋根と実技研修の内容・技術継承の問題点」
進行者 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 茅担当理事 長崎 貴宣

総 評 ● 文化庁 文化資源活用課 文化財調査官 結城 啓司 様

閉会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 副会長 友井 辰哉

見学会



みちのく民俗村 水車小屋 見学会



葺き替え後 みちのく民俗村 水車小屋

協議会



建築装飾技術史研究所 所長 窪寺 茂様



北上市立博物館 館長 渋谷 洋祐様



文化庁 文化資源活用課 文化財調査官 結城 啓司様



講義風景



討論会風景

令和5年度 文化財研修会

日時 ● 令和6年1月22日(月) 13:00~17:00
会場 ● 桂離宮
(京都市西京区桂御園)
京都リサーチパーク
(京都市下京区中堂寺南町134)

この度は京都市にある桂離宮を見学させていただきました。今回も全国から遠路はるばる正・準会員約70名の参加がありました。

桂離宮は江戸時代初期に八条宮智仁親王と智忠親王親子が約50年の歳月を費やして完成させた「日本庭園の最高傑作」との呼び声も高い回遊式日本庭園です。

建物や背景、由来や歴史などの説明を受けながら見学をさせていただきました。自然の景観を意匠として建物に取り入れ、尚且つ遊び心に溢れた技巧の数々は現代であっても非常に美しく新鮮に写りました。

次に、場所を京都リサーチパークに移して、京都女子大学名誉教授の齋藤 英俊様に講義をしていただき、改めて桂離宮にまつわる文化や意匠などを詳しく教えていただきました。そこにまつわる歴史や人間関係、色々な変遷を経て今この姿で残っている桂離宮という素晴らしい庭園。これらの存続に我々も力になれる様より一層精進していきたいと思います。

約半日の短い時間であり、また途中で移動も含めたタイトなスケジュールであったにもかかわらず、皆様の御協力のもと無事研修会を終えることができ非常に感謝しています。今年度は従来と違い工事中の現場見学という形ではありませんでしたが、今回のように庭園の一部として建物を観るというのは興味深く非常に良い経験ができたと感じています。

今年もこのような研修会を行うことができ、講義を行っていただいた京都女子大学名誉教授の齋藤 英俊様、参加くださった当保存会の正・準会員の皆様、心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

見学会 「桂離宮」

研修会 「京都リサーチパーク」

開会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 会長 大野 浩二

講義 ● 京都女子大学 名誉教授 齋藤 英俊 様
題目「桂離宮の文化的背景と意匠」

閉会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 執行理事 友井 辰哉



文化財研修会 参加者一同



京都女子大学 名誉教授 斎藤 英俊様の講義



京都リサーチパークでの講義風景

■ 準会員

No.	氏名	職 種
1	青木 照幸	檜皮葺
2	青山 亨	檜皮葺・柿葺
3	朝野 達也	檜皮葺・柿葺
4	芦田 健太	檜皮葺・柿葺
5	蘆田 祐明	檜皮葺・柿葺
6	足立 健一	檜皮葺・柿葺
7	足立 大茂	檜皮葺・柿葺
8	安部 悟司	柿葺 屋根板製作
9	飯野 映稚	檜皮葺・柿葺
10	石井 潤	檜皮葺・柿葺
11	石川 良三	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
12	石塚 健一	竹釘製作
13	市原 健	檜皮葺・柿葺
14	一色 律男	檜皮葺・柿葺
15	伊藤 貴弘	檜皮葺・柿葺
16	伊藤 延行	檜皮葺・柿葺
17	伊藤 元輝	檜皮採取
18	井上 裕貴	檜皮採取
19	居原田 浩樹	檜皮葺・柿葺
20	入江 匠	檜皮葺・柿葺
21	岩崎 正	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
22	大石 薫利	檜皮葺・柿葺
23	大西 康純	茅葺
24	大野 隼矢	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
25	緒方 伸也	檜皮葺
26	岡野 史和	檜皮葺・柿葺
27	岡本 葉澄	檜皮葺・柿葺
28	奥田 治郎	檜皮葺・柿葺
29	奥田 正博	檜皮葺・柿葺
30	尾崎 良助	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
31	加々美 栄	茅葺
32	方山 和也	檜皮葺・柿葺
33	勝部 哲也	檜皮葺・柿葺
34	金沢 翔太	茅葺
35	包國 眞匠	檜皮葺・柿葺
36	金子 英生	檜皮葺・柿葺
37	嘉本 洋士	檜皮葺・柿葺
38	川瀬 皆人	檜皮葺・柿葺
39	河野 修二郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
40	菊池 保	茅葺
41	岸田 智太郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
42	岸田 直彦	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
43	吉川 圭一	檜皮葺・柿葺 屋根板製作
44	吉川 晋二	柿葺 屋根板製作
45	木戸 智裕	屋根板製作
46	木下 和也	檜皮葺・柿葺
47	木下 真介	檜皮葺・柿葺
48	木村 健太	檜皮葺・柿葺
49	清田 幸臣	檜皮葺・柿葺
50	栗山 弘忠	屋根板製作

No.	氏名	職 種
51	小池 一平	檜皮葺・柿葺
52	古田島 進	管 理
53	後藤 哲夫	檜皮採取
54	小西 康介	檜皮葺・柿葺
55	小西 繁信	檜皮葺・柿葺
56	小林 洋介	茅葺
57	小原 一樹	檜皮葺・柿葺
58	近藤 竜太	檜皮採取
59	寒河江 清人	檜皮葺・柿葺
60	佐々木 綾子	檜皮葺
61	佐々木 孝則	茅葺
62	佐藤 偉仁	茅葺
63	猿橋 成博	茅葺
64	澤田 昌己	檜皮葺・柿葺
65	品川 琉心	檜皮葺・柿葺
66	島田 伊織	茅葺
67	末岡 治人	檜皮葺・柿葺
68	須賀 均	檜皮葺 檜皮採取
69	須賀 将志	檜皮葺・柿葺
70	杉谷 功	檜皮葺・柿葺
71	鈴木 礼央	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
72	高木 諒	屋根板製作
73	高平 勝也	檜皮葺・柿葺
74	竹森 暢哉	檜皮葺・柿葺
75	武山 貞秋	茅葺
76	立木 覚士	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
77	田中 智紗衣	管 理
78	田中 智也	管 理
79	寺田 美乃里	檜皮葺・柿葺
80	富樫 忠義	茅葺
81	戸梶 憲幸	檜皮葺・柿葺
82	友井 康介	檜皮葺・柿葺
83	中島 信	茅葺
84	永瀬 慶祐	檜皮葺・柿葺
85	中西 純一	茅葺
86	中西 祥也	檜皮葺・柿葺
87	永原 光敬	檜皮葺・柿葺
88	中村 裕司	檜皮葺・柿葺
89	新津 侑樹	茅葺
90	西 裕之	檜皮葺・柿葺
91	西堀 大樹	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
92	西村 聡央	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
93	西村 信生	檜皮葺・柿葺
94	野谷 嘉邦	檜皮葺・柿葺
95	BAATARSUREN BAT ERDENE	茅葺
96	橋本 浩太郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
97	橋本 理穂	檜皮葺
98	東 友一	檜皮葺・柿葺
99	樋口 隆	茅葺
100	檜 篤広	檜皮葺・柿葺

[五十音順]

No.	氏 名	職 種
101	平 尾 零	檜皮葺・柿葺
102	平 田 将 大	檜皮葺・柿葺
103	平野 健太郎	檜皮葺・柿葺
104	平野 裕 也	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
105	廣 内 翔	檜皮葺・柿葺
106	深 本 英 昭	檜皮葺・柿葺
107	福 岡 亮 太	檜皮採取
108	福 留 巧 稀	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
109	藤 中 竜 也	檜皮葺・柿葺
110	藤 原 諒	檜皮葺・柿葺
111	藤 原 優	茅 葺
112	瀨 上 大 輔	檜皮葺・柿葺
113	古 川 友 喜	檜皮葺・柿葺
114	細 見 知 憲	檜皮葺・柿葺
115	細 見 裕	檜皮葺・柿葺
116	堀 内 博 樹	檜皮葺・柿葺
117	本 多 亮 貴	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
118	毎 熊 德 満	檜皮葺
119	横 原 孝 宜	檜皮葺・柿葺
120	松 田 哲 也	檜皮葺・柿葺 茅葺
121	松 村 省 弥	檜皮葺・柿葺
122	松 村 純 孝	檜皮葺・柿葺
123	松 村 有 記	檜皮葺・柿葺
124	三 上 昭 信	茅 葺
125	道 繁 康	檜皮葺・柿葺
126	三ツ出 俊平	檜皮葺・柿葺
127	緑 川 幹 雄	檜皮葺・柿葺
128	峰 地 幹 太	檜皮葺・柿葺
129	宮 川 義 史	檜皮葺・柿葺
130	宮 西 寛	檜皮葺
131	向 田 学	檜皮葺・柿葺
132	村 岡 伸 康	檜皮葺 檜皮採取
133	村 上 章 浩	檜皮葺・柿葺
134	村 上 貢 章	檜皮葺・柿葺
135	森 山 淳 希	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
136	八ッ橋 崇市郎	茅 葺
137	矢 野 友 則	檜皮葺・柿葺
138	山 口 成 貴	檜皮葺・柿葺 茅葺
139	山 口 宗 平	檜皮葺・柿葺
140	山 崎 堅 登	檜皮葺・柿葺
141	湯 野 尚 一 郎	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
142	吉 竹 秀 紀	檜皮採取
143	余 宮 祥 平	茅 葺
144	和 田 琢 男	檜皮葺・柿葺 檜皮採取
145	渡 部 雄 太	檜皮葺・柿葺

(2023.4.1現在)

京都市東山区清水二丁目 205-5
京都市文化財建造物保存技術研修センター内



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

TEL 075-541-7727 FAX 075-532-4064
<http://www.shajiyane-japan.org>

手
練

第 19 号

令和 5 年度 掲載

あ と が き


今年度は新型コロナウイルスの影響も薄れ、当保存会も例年通り事業を行うことができるようになりました。屋根研修も3名が前期の工程を終え、来期に向けそれぞれの事業所で目標に向かって努力していることと思います。今年度も保存会事業にご協力いただきました皆様には心よりお礼を申し上げます。来年度もよろしく願いいたします。

能登半島地震の発生から2か月が経ちますが、未だ大変な状況が続いています。一日も早く復興がなされますことを心よりお祈り申し上げます。

手練

S H U R E N

第 19 号

 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会